

施策 5 - 1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進

- ・ 分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H30n : 5 コース → R1n : 7 コース
- ・ 旧市街土産菓子登録商品数 H30n : 0 商品 → R1n : 1 商品

★外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、福岡アジア美術館）

H30n : 33,504 人 → R1n : 20,528 人

- ・ 「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H30n : 246,260 人 → R1n : 274,963 人

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

★鴻臚館跡展示館の改修に着手

★石垣保存修理工事，潮見櫓復元に向けての取組みを実施

- ・ 福岡城むかし探訪館来館者数 H30n : 28,398 人 → R1n : 31,423 人
- ・ 三の丸スクエア来館者数 H30n : 119,165 人 → R1n : 119,881 人
- ・ 鴻臚館跡展示館来館者数 H30n : 29,579 人 → R1n : 28,654 人

★外国人来館者数（福岡城むかし探訪館，三の丸スクエア，鴻臚館跡展示館）

H30n : 96,936 人 → R1n : 93,929 人

サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進

- ・ 志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 H30n : 4,779 人 → R1n : 5,159 人

文化財の観光資源としての活用促進

- ・ 吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H30n : 5 回 → R1n : 5 回

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲 7 - 3>

- ・ クリエイティブフェスタの来場者数 H30n : 約 87,000 人 → R1n : 約 50,000 人※開催日数 1 日減
- ・ アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H30n : 34,457 人 → R1n : 31,483 人

祭りの魅力発信

- ・ 効果的な祭りの魅力発信手法の検討

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1 - 4>

- ・ 魅力的なコレクション展や特別展の開催，カフェやミュージアムショップ等の利便施設の充実

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲 1 - 4>

- ・ 「アートカフェ」で，市主催及び民間利用によるイベントやユニークメニューを実施

★外国人来館者数（福岡アジア美術館） H30n : 7,602 人 → R1n : 5,820 人

博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

- ・ 特別展「侍 SAMURAI～もののふの美の系譜～」(R1.9.7～R1.11.4) 観覧者数 : 71,833 人

★外国人来館者数（博物館） H30n : 10,534 人 → R1n : 12,379 人

ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6 - 4>

- ・ 海外のシェフ等との商談回数 H30n : 8 回 → R1n : 8 回

動植物園再生事業 <再掲 4-4>

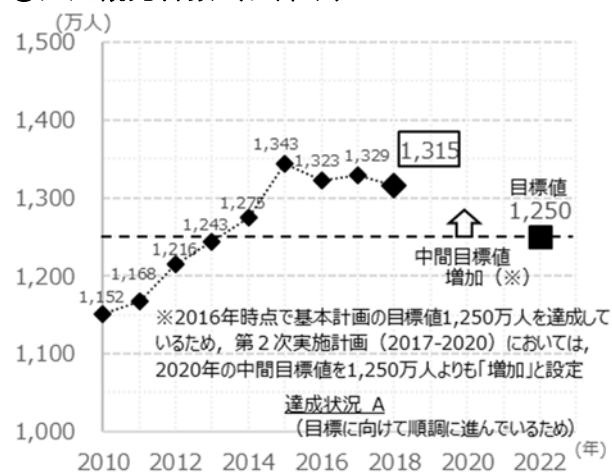
- ・ ペンギン展示施設新築工事に着手

特色ある公園づくり事業 <再掲 4-4>

- ・ 旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営を行う事業者と事業実施協定を締結

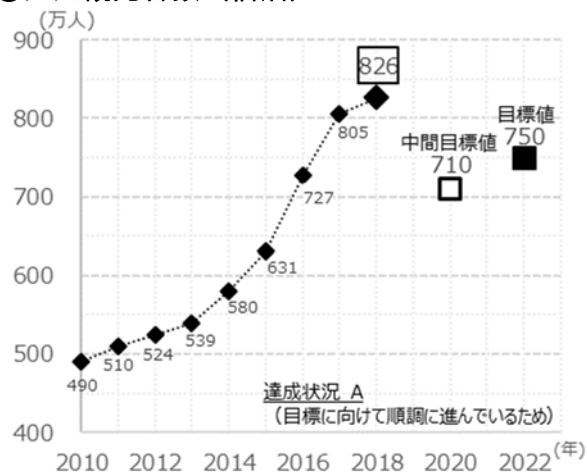
2 成果指標等

①入込観光客数（日帰り）



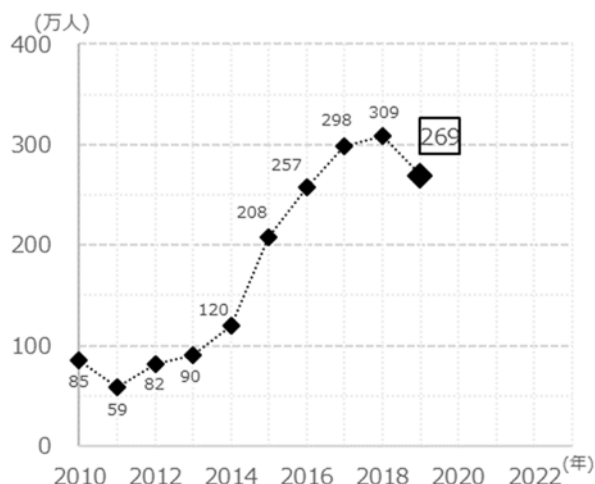
出典：福岡市観光統計

②入込観光客数（宿泊）



出典：福岡市観光統計

③福岡市への外国人来訪者数〔補完指標〕 <再掲 5-6>



出典：法務省「出入国管理統計」

<指標の分析>

指標①は減少しているが、入込観光客数全体（日帰り＋宿泊）では7万人の増加となっており、日帰り客から宿泊客にシフトしていると考えられる。

指標②は、ホテルの増加や観光・MICEの積極的な誘致・受入などの影響により、増加となっている。

指標③は、高水準で推移しているものの、前年から減少している。これは日韓情勢の影響等を受け、構成比の大半を占める韓国からの入国者が2019年(R1)8月以降急激に減少したことが要因である。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
進捗	・ラグビーワールドカップの時期に合わせ、市民や観光客に旧市街を認知し、楽しんでもらえる環境を整備した。 ＜博多旧市街フェスティバル実施＞ 博多旧市街エリアでイベントを多面展開 ・新規イベント：忍者アクロバティックショーやスカイランタンなどを実施。 ・既存イベント：ライトアップウォークやまるごとミュージアムなどを集約。 ＜情報発信＞ ・まち歩きマップ：5か国語（日・英・中（繁体字・簡体字）・韓・仏）で多言語化。 ・観光情報サイト「よかなび」内に「ラグビーワールドカップ」特設ページを開設。 ・SNSを活用した情報発信：フェイスブック、Instagramを開設。 ・博多旧市街のプロモーションツールとして動画制作。 ＜沿道装飾＞ ・博多旧市街提灯：沿道店舗に掲出しおもてなしの雰囲気醸成。 ・石畳風舗装整備：櫛田表参道（H31.3月末）、御供所通り（R1.6月末）を整備。 ・地下鉄祇園駅の壁面装飾を実施。 ・多言語対応ツアー：民間連携によりツアー商品の造成とガイド養成講座を実施。 ・博多旧市街土産菓子の登録制度を設け、官民連携で博多旧市街のプロモーションを実施。 ＊旧市街土産菓子登録商品数 H30n：0商品 → R1n：1商品 ＊分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H30n：5コース → R1n：7コース ＊外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、福岡アジア美術館） H30n：33,504人 → R1n：20,528人 ＊「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H30n：246,260人 → R1n：274,963人 ・承天寺通り地区都市景観形成地区の指定
課題	・博多旧市街の認知度を向上させることが必要。 ・H29.12から、博多部にある価値ある歴史・伝統・文化の資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める取組みを推進してきたが、国内外問わず認知度が低いため、観光資源として魅力を磨き、市民や観光客に情報発信していくことが必要。
今後	①博多旧市街フェスティバルの拡充 ・ライトアップウォークでの特設ステージや屋内コンテンツ等の実施 ・寺社内での屋外アート展示（まるごとミュージアム） ・博多旧市街エリア内の関連イベントとの連携 ②博多旧市街ブランディング ・地下鉄や民間施設と連携した旧市街ラッピングの実施 ・Wi-Fiを活用したデジタルマーケティングによる観光動向分析 ③沿道の賑わい創出 ・石畳風舗装等の道づくり ・街灯装飾、フォトスポットの造成などによる街並み雰囲気醸成 ・街歩きガイドコンテンツの制作 ※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、実施を検討していく。

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み	
進捗	・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、潮見櫓復元に係る調査検討を行った。また、祈念櫓石垣解体修理工事に着手した。 ・南丸多聞櫓の民間活用によるユニークベニュー「てのひら盆栽づくり at 多聞櫓」を実施。盆栽の展示、盆栽づくりのワークショップ、南丸多聞櫓内部公開を行った。2 日間の総来場者は 600 名。 ・歴史講座や古代染色などの体験講座を実施した。 ・H30n に策定した「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館の改修に着手した。 ・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の施設運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに体験型コンテンツやイベントの拠点として活用 * 福岡城むかし探訪館来館者数 H30n : 28,398 人 → R1n : 31,423 人 * 三の丸スクエア来館者数 H30n : 119,165 人 → R1n : 119,881 人 * 鴻臚館跡展示館来館者数 H30n : 29,579 人 → R1n : 28,654 人 * 外国人来館者数（上記三館合計） H30n : 96,936 人 → R1n : 93,929 人 ・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物や乗馬などの体験型コンテンツを実施 ・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツを実施。 ・福岡城内を回遊するスタンプラリーやなぞ解きゲーム等のイベントを実施し、鴻臚館跡展示館や多聞櫓等を活用。 ・福岡市公式の「福岡城御城印」を制作し、試行配布（1,000 枚）。 ・福岡城整備基金 * 福岡城復元に当たり広く参加意識を醸成するため設置。H26.7 条例施行 * 目標額：3 億 5 千万円 * 寄付実績：R1n 30,225,181 円、累計 98,516,972 円
課題	・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。福岡城整備基金の寄付額は増加傾向にあるものの、引き続き事業周知拡大につとめることが必要。
今後	・着物や乗馬の体験型コンテンツの磨き上げやAR体験コンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、ナイトコンテンツの検討などに取り組む。

サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進	
進捗	・サイクリストが安全に走行するために、砂が堆積しやすい「道切部」の清掃を実施。 ・志賀島渡船場の地区観光案内板を改修。 ・サイクルツーリズム広報ポスター・ちらしを作成し、島内や観光案内所など福岡市内各所で広報を実施。 ・市観光情報サイト「よかなび」において、外国人旅行者向け観光商品のPRを実施。 * 志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 - H30n : 4,779 人 → R1n : 5,159 人
課題	・引き続き、サイクリストの安全確保に努めるとともに、観光消費の拡大や、より一層のPRを図る必要がある。
今後	・サイクリストの安全確保に取り組む。 ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくりや、立ち寄りスポットづくりなど、ソフト・ハード面から、海辺の観光の魅力向上やブランディングに取り組む。

文化財の観光資源としての活用促進	
進捗	- 吉武高木遺跡「やよいの風公園」については、地域や史跡保存会等との連携を密接に図りながら、学習活動や活用事業の促進に取り組んだ。特に 5 月開催の「菜の花まつり」や、11 月に開催した「コスモスまつり」は公園近くの空き地で保存会と取り組んでいる「花畑プロジェクト」による成果を活用したイベントで、多くの来園者を得た。 * 吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H30n : 5 回 → R1n : 5 回 - 庚寅銘大刀については、R1.7 に国の重要文化財として指定され、発見された九州大学伊都キャンパスでシンポジウムの開催、出土地見学ツアー、象嵌体験教室を開催し、多くの市民が参加した。
課題	吉武高木遺跡や庚寅銘大刀については、観光資源としての活用促進のため、積極的な広報や周知により、認知度を高めることが課題である。
今後	- 吉武高木遺跡等については、観光資源としての活用を促進するため、地域や交通機関などとも連携を図りながら、魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。 - 庚寅銘大刀については、実物を福岡市博物館で展示するとともに製作した復元品や複製品の展示や貸し出し等を積極的に行い、広く市民に周知を図っていく。

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） ＜再掲 7-3＞	
進捗	・「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、アジア、クリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、「アジアンパーティ」として、9月～10月に集中開催（25事業、約66万人が参加）。 ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭では、105本（映像作品、関連企画含む）の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施。 ＊アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H30n：34,457人 → R1n：31,483人（関連企画含む） ・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場にてイベントを実施。 ＊クリエイティブフェスタの来場者数 H30n：約87,000人 → R1n：約50,000人（※開催日数1日減）
課題	・アジアンパーティは、R1nに7年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。
今後	・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。 ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」のブランディングを推進する。 ・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。

祭りの魅力発信	
進捗	・博多祇園山笠の宣伝隊を台湾に派遣するとともに、祭りアイランド九州実行委員会（構成組織：九州地域戦略会議）が熊本市で開催した「祭りアイランド九州」に福岡・博多を代表する祭りである「博多祇園山笠」「博多松囃子」を派遣するなど、福岡市独自の魅力を国内外へ発信した。 ・ユネスコ無形文化遺産に登録された祭りを有する5都市（福岡市・北九州市・唐津市・日田市・八代市）と情報交換会を行い、連携を強化した。
課題	・ユネスコ無形文化遺産である博多祇園山笠や、国重要無形民俗文化財に指定された博多松囃子の更なる魅力発信や誘客促進を図るとともに、観光客の安全対策について検討が必要。
今後	・博多祇園山笠や博多松囃子をはじめとした祭りの魅力を国内外の観光客に発信できるよう、海外での宣伝活動や大規模集客イベント等を活用したPRを行い、更なる誘客促進に努める。

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・魅力的なコレクション展や特別展の開催 ・コレクションを核とした SNS 等による積極的な広報・情報発信 ・カフェ・レストランのオリジナルメニューの提供やショップでのオリジナルグッズの販売等の利便施設の充実 ・美術館でのコンサートや MICE イベントなど、多彩な集客イベントの開催。 ・案内サインの 4 か国語化のほか、総合案内における英語対応職員の配置、英語ツアーの実施、QR コードを活用した英・中・韓の作品解説の提供など、外国人来館者の受入環境の充実 ＊施設利用者数 R1n : 509,240 人 ＊コレクション展外国人来館者数 R1n : 20,760 人
課題	・時代や市民ニーズに応える集客交流拠点として、観光客やこれまであまり美術館を訪れていなかった方々に対するアプローチを強化していくことが必要。
今後	・魅力ある展覧会の開催のほか、SNS などによる積極的な情報発信を通して美術館の認知度を高め、多くの市民や観光客が来館するような様々な取り組みを行っていく。 ・集客イベントや夜間開館等により美術館の新しい魅力を創出するとともに、インバウンドなど外国人来館者の受入環境の充実を図る。

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・「アートカフェ」の整備（H30.3）後は、積極的に活用を推進し、市主催や民間利用による様々なイベントやレセプション等に利用されている。 ＊施設利用者数 H30n : 462,725 人 → R1n : 382,779 人 ＊外国人来館者数 H30n : 7,602 人 → R1n : 5,820 人 ＊アートカフェ利用件数 R1n : 44 件
課題	・「アートカフェ」を、多様なイベント等が開催される当館の新たな魅力空間として内外にさらに発信していくことが必要である。
今後	・交流事業で招聘している美術作家による交流イベントや、「アートカフェ」で定期的に音楽演奏や伝統芸能公演等を実施するなど、多様な文化芸術に出会える、博多部の新たな集客交流拠点として、より一層、市民や観光客の認知度を高めていく。

博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

進捗	・所蔵品の充実や魅力ある展覧会の開催に努めるとともに、市内小学校の休暇期間を活用し、金印の使い方（封泥）を知るワークショップ「こども博物館」を計 2 回実施し、207 人が体験した。 ＊特別展「侍 SAMURAI～もののふの美の系譜～」(R1.9.7～11.4) 観覧者数 : 71,833 人 ＊外国人来館者数（博物館） H30n : 10,534 人 → R1n : 12,379 人
課題	・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが課題。 ・地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。
今後	・展示内容の充実や関係機関との連携強化などを図り、SNS などさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。 ・博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源を地域と連動をさせながら、外国人観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。 ・福岡の歴史・文化に係る事業の充実など、観覧だけではなく体験する機会の提供を推進する。

ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6-4>	
進捗	- 生産現場に海外シェフやバイヤーを招聘し商談を行うとともに、福岡市漁業協同組合のマーケティング拠点施設（博多家（ハカタハウス））において、旬の魚介類や加工品の提供の実施。 - 国内外の食のイベントでのPR活動として、R1.9 に東京で開催された「東京ハーヴェスト」、R1.11 に「福岡県産品PR試食会」に参加した。 *海外のシェフ等との商談回数 H30n：8回 → R1n：8回
課題	唐泊恵比須かき、弘のサザエ、アサリ等の市内産水産物は香港の高級レストランへの出荷が進みつつあるものの、国内市場においては、知名度が高いとは言えない。
今後	国内外へPRやプロモーションを実施し、国内向けのブランド強化・販路拡大を推進。

動植物園再生事業 <再掲 4-4>	
進捗	R3 春オープン予定のペンギン展示施設新築工事に着手。
課題	動物の個別の特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
今後	- 人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進。 - 来園者の利便性向上のため、植物園立体駐車場の再整備。 - R4 春のアジアゾウ導入に向け、現地専門家の意見を踏まえた施設整備を実施。

特色ある公園づくり事業 <再掲 4-4>	
進捗	旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営事業について、公募により決定した事業者と事業実施協定を締結した。
課題	高宮南緑地の整備・管理運営事業は民間活力の導入による魅力的な整備・管理運営を求めるものであるが、本事業地が広く市民に開かれた、より良い公園となるよう、引き続き事業者との調整が必要。
今後	高宮南緑地について、R2n は、広く市民に開かれた、より良い公園となるよう、事業者との調整を行いながら、整備を進める。

施策 5－2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり

- ・セントラルパーク基本計画を策定

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）

★イベントの年間開催日数 H30n：130 日 → R1n：235 日

- ・鴻臚館跡展示館来館者数 H30n：29,579 人 → R1n：28,654 人

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

- ・福岡城整備基金寄付 H30n：26,666,836 円 → R1n：30,225,181 円

利活用を支える体制づくり

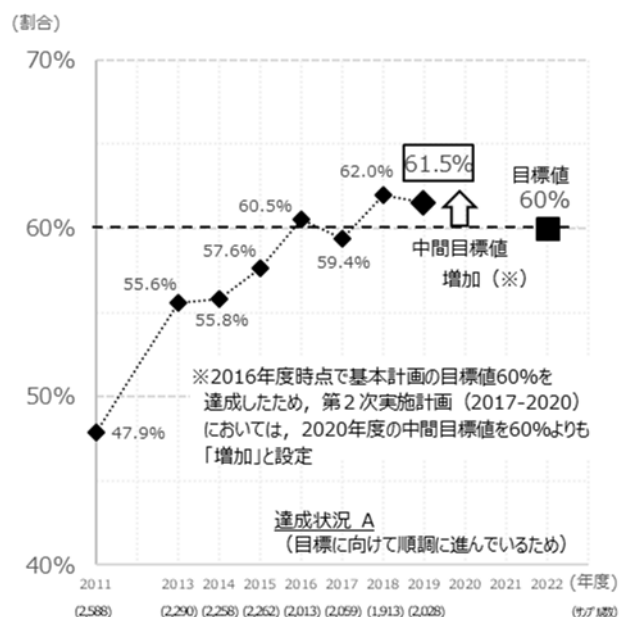
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 H30n：2 回 → R1n：1 回

利活用を支える機能の充実

- ・サクラやアジサイ等，史跡や公園における見所づくり
- ・花の見頃に応じた移動式ベンチの設置，既存トイレの洋式化
- ・既存サインやベンチの更新
- ・城内住宅の移転率 H30n：75.5% → R1n：76.0%

2 成果指標等

①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント等の受け入れなどによる取組みを推進したことが、指標①の順調な推移に現れていると考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり	
進捗	・セントラルパーク基本計画を策定した。
課題	・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や整備内容の詳細な検討が必要。
今後	・セントラルパーク基本計画に基づき、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す。 ・わかりやすい情報発信に努め、身近な史跡としての公開・活用を進めていく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	・福岡城さくらまつりの内容を充実させた。 *キャッシュレス決済サービスの導入、有料ライトアップエリアのチケット先行販売、ゴザの有料レンタルなどを実施。 ・指定管理者の自主事業の充実により、利活用を推進した。 *福岡城梅まつりの内容充実（福岡コンベンションビューロー・むかし探訪館との連携） *福岡城秋の公園で遊ぼうの内容充実（自治会・市民ボランティア・西日本短期大学との連携、地域 NPO 法人との共催等） *ラジオ体操実施により地域コミュニティの場創出（25 日間、延 437 名参加） *マルシェ事業実施により日常の賑わいづくり（4 月～11 月 8 回実施） *三ノ丸バーベキュー事業 Green Magic MAIZURU の営業 *自然観察会の定期実施により、舞鶴公園利用者の新規開拓（月 1 回） ・多様な民間イベントを受入れ、季節毎の賑わいを創出した。 *イベントの年間開催日数 H30n：130 日 → R1n：235 日 *てのひら盆栽づくり at 多聞櫓（盆栽の展示、盆栽づくりのワークショップ） *九州ビアフェスティバル（クラフトビール・九州産食品の普及促進等） *フクオカマチキャンプ（キャンプや音楽イベント、ワークショップ） *健康すこやかウォーク（健康づくりをテーマにウォーキング、ステージイベント等） *ヨガ・マルシェ（大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用した催し）など ・夏と秋のイベントをパッケージ化した「イベントガイド」を作成し、各所で配付。 ・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物や乗馬などの体験型コンテンツを実施。 ・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむ AR 体験コンテンツを実施。 ・福岡城内を回遊するスタンプラリーやなぞ解きゲーム等のイベントを実施し、鴻臚館跡展示館や多聞櫓等を活用。あわせて大濠公園ボートハウス内ジャズライブを開催。 ・福岡市公式の「福岡城御城印」を制作し、試行配布した（1,000 枚）。 ・鴻臚館跡展示館来館者数 H30n：29,579 人 → R1n：28,654 人
課題	・市民や観光客が四季を通じて楽しめる状況にはなっていない。 ・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。 ・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。 ・史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が必要。
今後	・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園三ノ丸広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。 ・キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを推進する。 ・イベントしやすい環境を整えるため、園内の電気・給排水設備の整備を行う。 ・着物や乗馬の体験型コンテンツの磨き上げや AR 体験コンテンツの活用、イベントや M I C E レセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、ナイトコンテンツの検討などに取り組む。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

進捗	・市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、舞鶴公園をはじめとした市内各種イベントにおけるブース出展などのPR活動や、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのリーフレット及び募金箱の設置、歴史系雑誌への広告掲載や、日本最大規模のお城イベントである「お城 EXP02019」へのブース出展、各地の福岡県人会などと連携し、総会でのブース出展や、会員へのリーフレット配布を行うなど、市外のPRにも積極的に取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。 ＊年度毎寄付実績（カッコ内は目標額） - H26n： 289 件， 8,225,019 円（10,000,000 円） - H27n： 248 件， 8,955,834 円（25,000,000 円） - H28n： 224 件， 13,925,957 円（25,000,000 円） - H29n： 165 件， 10,518,145 円（25,000,000 円） - H30n： 198 件， 26,666,836 円（25,000,000 円） <u>R1n： 284 件， 30,225,181 円（25,000,000 円）</u> - 累計：1,408 件， 98,516,972 円
課題	・福岡城整備基金の寄付額は増加傾向にあるものの、引き続き事業周知拡大につとめる。
今後	・福岡城整備基金への寄付のリピーターを増やすとともに、イベント等と連携したPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進する。 ＊城内イベントと連携した寄付等の拡充 ＊リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載 ＊各種媒体を活用した広報の強化

利活用を支える体制づくり

進捗	・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的とした大濠・舞鶴公園連絡会議を開催した。 ＊開催回数 H30n：2回 → R1n：1回 ・指定管理者の自主事業の充実により、市民との共働を促進した。 ＊小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布 ＊市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施 ・福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草を実施。
課題	・両公園内の複数の施設管理者や関係部局及び民間事業者等の公園に関わる様々な主体が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実が必要。 ・さらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。
今後	・日常的に県民・市民，NPO，企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ，効果的に活用していく仕組みづくりの検討を推進する。

利活用を支える機能の充実	
進捗	・ 史跡や公園としての魅力向上のための見所づくりを実施した。 * サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施（上之橋，三の丸） * アジサイの見所づくりに向け、市民と共働でアジサイを植樹（下之橋，御高屋敷） * ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの育成） * コスモス畑・ナノハナ畑の育成による季節の花見どころ創出 * 梅園土壌改良実施により梅の花付き改良及び開花調査継続 ・ 舞鶴公園における回遊性・快適性の向上に取り組んだ。 * 大濠公園と舞鶴公園共通のサインマニュアルに基づき、誘導サインの設置 * 三ノ丸広場，二ノ丸において，ベンチの更新 * 花の見頃に応じた移動式ベンチの設置（指定管理者） * 既存トイレの洋式化（8ヶ所） ・ 公園整備に向けて旧高等裁判所の解体に着手した。 * 事業期間：H30n～R5n，債務負担行為議決済（H26.9月） ・ 城内住宅の移転を実施した。 * 移転率 H30n：75.5％（148/196 区画）→ R1n：76.0％（149/196 区画）
課題	・ 利活用を支える機能の充実については，将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに，計画的な財源確保が必要。 ・ 鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。 ・ サインやベンチなど，老朽化した既存施設への対応が必要。
今後	・ サインマニュアルに基づき，順次，既存サインの更新を推進する。 ・ 老朽化したベンチの更新を推進する。 ・ 基本計画に基づき，計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。 ・ 福岡高等裁判所の跡地整備について，関係機関と連携しながら推進する。 ・ 城内住宅について，計画的に移転事業を推進する。

施策 5－3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の拡充

- ・まち歩きコース数 H30n : 59 コース → R1n : 61 コース

官民共働による外国人の受入環境整備

- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 H30n : 109 ケ所 → R1n : 119 ケ所
- ・ラグビーワールドカップにおいて外国人観光客へのおもてなしを実施
- ・おもてなし店舗数 H30n : 0 店舗 → R1n : 364 店舗

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

- ・本日開催イベント及びツアー情報の発信を開始
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H30n : 788 件 → R1n : 793 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

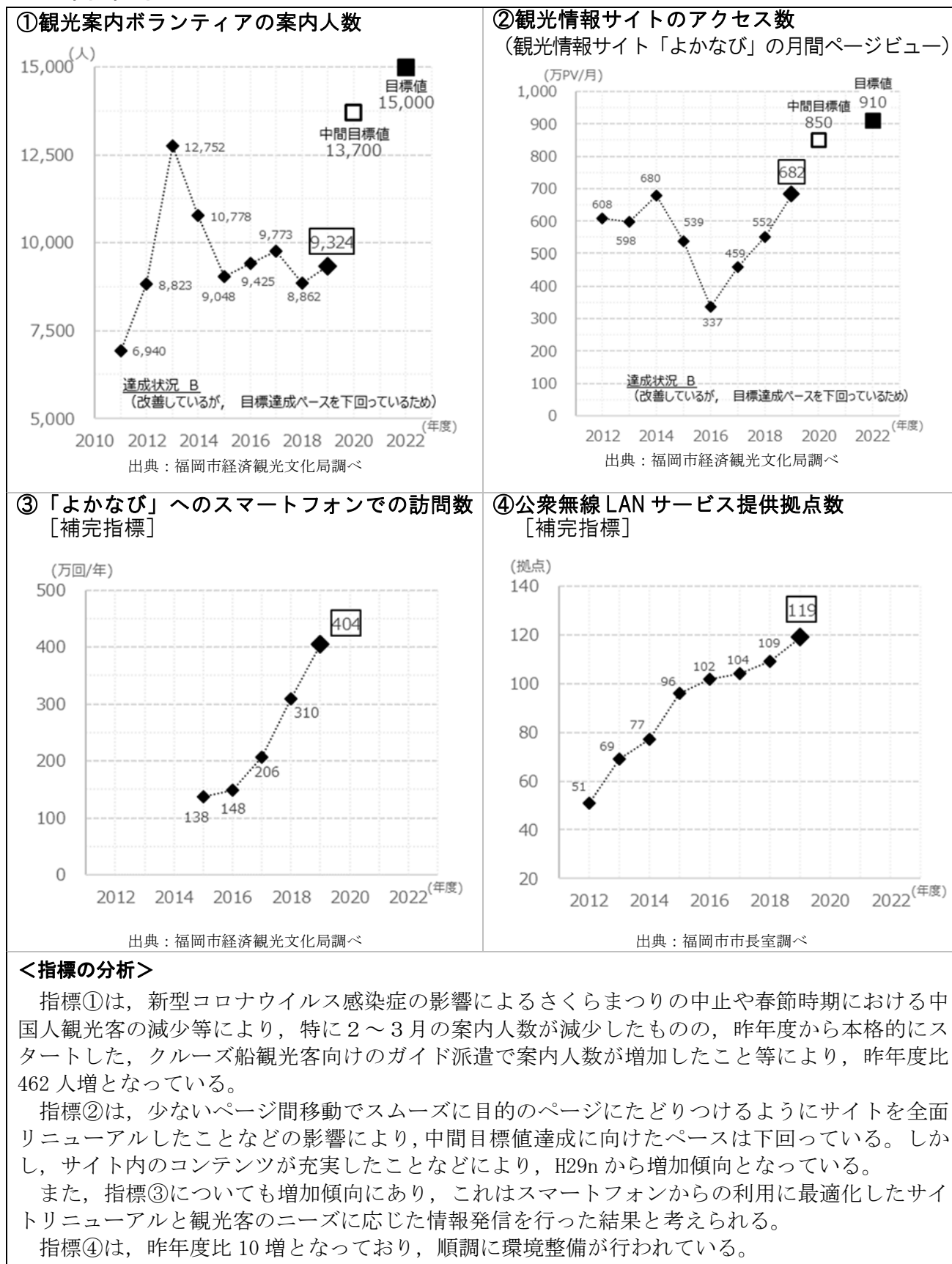
快適で高質な都心回遊空間の創出

- ★はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備を実施
- ★民間事業者が整備するバスターミナルと博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（R1n 工事）
- ★西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導
（石畳整備 R2.3 時点 一部区間整備完了）
- ★国が整備する国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（春吉橋本橋整備中）

観光バス受入環境の改善 <再掲 5－6>

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H30n : 6,092 台 → R1n : 5,906 台

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	------------------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	- 観光客の依頼に応じた派遣ガイドや企画募集型まち歩きガイド、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施。 *案内件数 H30n：886 件 → R1n：789 件 *案内人数 H30n：8,862 人 → R1n：9,324 人 - 福岡市内の様々な地域の魅力を再発見してもらうため、新コースを開発し、まち歩きの内容充実を図った。 *まち歩きコース数 H30n：59 コース → R1n：61 コース - 新規ガイドを募集するために研修を実施。 - クルーズセンターでクルーズ客への観光案内の本格実施。 - 市内の歴史・文化遺産を活かしたまち歩きコースをゲームキャラクターが案内する「歴史なびアプリ」を運用した（～R1.5）。
課題	「まち歩き」ガイドについて、案内人数増加に向けて、観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。 - 外国人観光客の受入体制について、外国語対応可能な人材が不足。 「歴史なびアプリ」は、キャラクターの使用承諾の期限を迎えたため、運用を停止した。
今後	- 都心部以外の地域における新たな地域の魅力を発掘し、新コースを開発することにより、ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。 - 外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに、他団体との連携や I o T の活用など、インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。 - 福岡の歴史や文化財を活用した体験型観光プログラムと連携して、まち歩きのさらなる魅力向上を図る。 - S N S の活用など、双方向性や拡散力を重視した情報発信に努めていく。 「歴史なびアプリ」は、運用を停止し、情報技術の進展を反映した後続となるコンテンツを検討している。

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	- ぐるなびとの包括連携協定による、インバウンド対策セミナー（104 名参加）を実施。 - 無料公衆無線 LAN サービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 *公衆無線 LAN サービス提供拠点数 H30n：109 ヶ所 → R1n：119 ヶ所 *市営渡船旅客待合所，赤煉瓦文化館，東・南区役所に公衆無線 LAN 設置 - ラグビーワールドカップにおいて、臨時観光案内所の設置やおもてなし店舗として多言語・キャッシュレス対応を推進するなど、官民協働で外国人観光客へのおもてなしを実施。 *おもてなし店舗数 H30n：0 店舗 → R1n：364 店舗
課題	受入体制の強化については、観光施設や宿泊施設，交通機関，飲食店等と連携して取り組む必要がある。
今後	ラグビーワールドカップのレガシーを東京オリンピック・パラリンピック及び世界水泳選手権福岡大会へと継承し，スポーツ MICE としての都市ブランド力のより一層の向上を目指し，官民一体で外国人観光客の受入環境整備の促進を図る。

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

進捗	・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、タイ語、ベトナム語の6言語でも発信している（計11言語）。 ＊フランス語、タイ語、ベトナム語については内容の拡充（モデルコース、特集の掲載）を行った。 ・トップページでは、外国人旅行者を含む来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、今日福岡に来た人が、今福岡で行われているイベント等がひと目で分かるように「本日開催のイベント及びツアー情報」を発信している。 ＊「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H30n：788件 → R1n：793件
課題	・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。
今後	・様々なエリアの旬のコンテンツの発信に加え、外国人観光客のニーズを踏まえたコンテンツを作成し、多言語で発信することなどにより、サイト利用者の興味を喚起するほか、外国人観光客をはじめとする来福者に、「本日開催のイベント及びツアー情報」等をわかりやすく発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出

進捗	・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。 ＜具体事業＞ ＊水辺を活かした空間の魅力づくりを推進するため、水上公園を再整備（H28.7 供用開始） ＊はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（H28.7 工事着手） ＊新たに民間事業者が整備するバスターミナルと、博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（R1n 工事） ＊西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備（R2.3 時点 一部区間整備完了）と景観誘導（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録） ＊国が整備する国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（春吉橋本橋整備中）
課題	・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。
今後	・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。

観光バス受入環境の改善 ＜再掲 5 - 6＞

進捗	・観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。 ・今津地区元寇防塁の観光バスへも対応した駐車場の確保。 ・福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H30n：6,092 台 → R1n：5,906 台 ・博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。
課題	・新型コロナウイルス感染症等に伴い影響が生じているクルーズ市場の動向を注視する必要がある。 ・観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。
今後	・観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。 ・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。 ※新型コロナウイルス感染症の影響やクルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。

施策 5－4 交流がビジネスを生む M I C E 拠点の形成

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

● M I C E 機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲 8－1>

- ★マリンメッセ福岡 B 館等整備に向けて、造成工事が完了し、施設の建築工事に着手
- ・ M I C E 施設等に係る民間サウンディングを実施、施設計画等を検討

都心循環 B R T の形成に向けた検討 <再掲 4－5>

- ・ 連節バスの増便（約 20～30 分間隔運行 → 約 15 分間隔運行）
- ・ 都心循環 B R T の検証

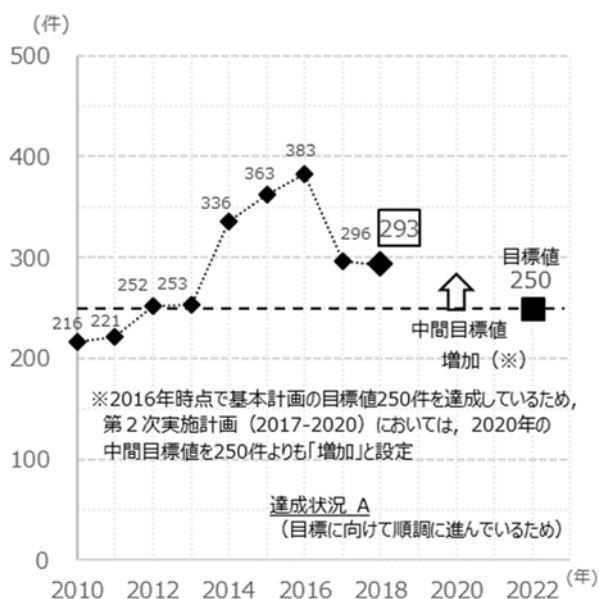
● M I C E 誘致の推進

戦略的な M I C E の誘致やビジネス振興

- ★海外見本市等商談件数 H30n : 128 件 → R1n : 119 件
- ・ コンベンションサポート件数 H30n : 133 件 → R1n : 137 件
 - ・ 国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 H30n : 14 件 → R1n : 11 件

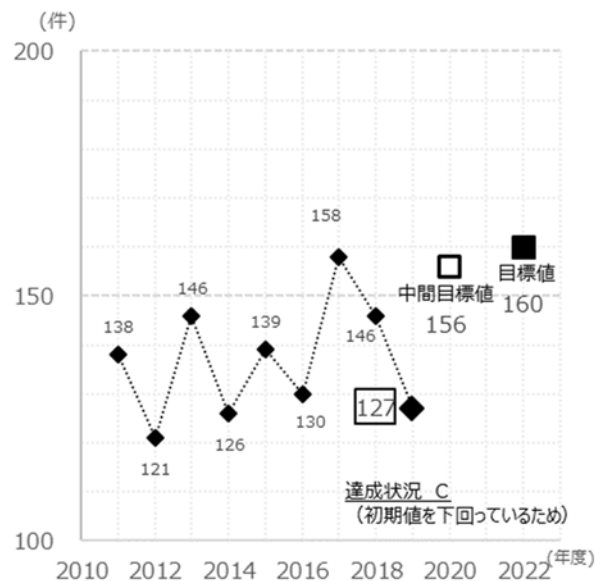
2 成果指標等

①国際コンベンション開催件数



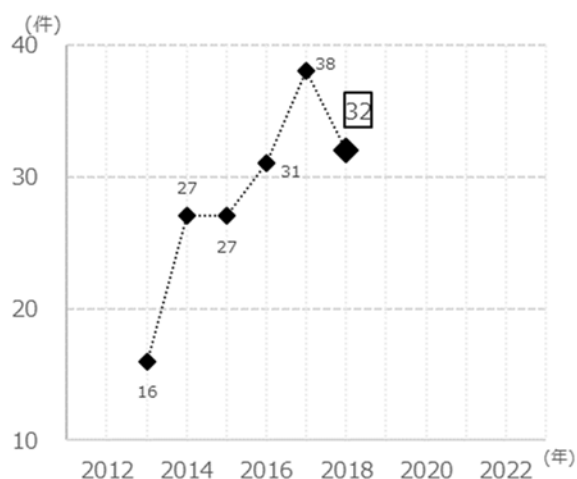
出典：日本政府観光局「国際会議統計」

②国内コンベンション誘致件数



(公財) 福岡観光コンベンションビューロー調べ

③大規模国際会議開催件数 (参加者数 1,000 人以上) [補完指標]



出典：福岡市経済観光文化局調べ

<指標の分析>

指標①は、目標値を上回っている状況であり、前年度と同程度で推移している。指標③は前年度を下回ったものの30件は超えており、継続して一定数の開催が達成できているため、引き続き誘致に力を入れていく。

また、指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、件数が減少しているが、状況を見極めながら、Meeting Place Fukuoka と連携した戦略的な誘致活動や開催支援に取り組んでいる。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度

○：概ね順調

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲 8 - 1>	
進捗	・マリンメッセ福岡B館については、R1.9に造成工事が完了し、建築工事に着手した。立体駐車場については、R1.5に建築工事に着手した。 ・ホール等のMICE施設については、民間サウンディングを実施し、施設計画の検討を行うとともに、施設の運営等に関する検討を実施した。
課題	・ウォーターフロント地区において、展示場、会議場、ホールなどのMICE関連施設が徒歩圏内に一体的・機能的に配置された「オール・イン・ワン」の実現を目指し、民間活力を生かした最適な事業スキームを構築する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症による影響やMICEの動向を注視しながら、検討を進めていく必要がある。
今後	・マリンメッセ福岡B館についてはR3.4の供用に向けて、引き続き建築工事を進めるとともに、Wi-Fi整備による利便性向上など環境整備に取り組む。 ・MICE開催の動向等を注視しながら適切に対応していく。

都心循環BRTの形成に向けた検討 <再掲 4 - 5>	
進捗	・連節バスの増便（約20～30分間隔運行 → 約15分間隔運行） ・バス路線の再編・効率化、運行、バス走行空間の視点から検証。
課題	・市民を対象に実施したアンケート調査によると、「今の運行で満足」という意見がある一方で、「広報案内の充実」を求める意見があることから、西鉄と連携しながら、更なる利用促進に向けた取り組みが必要。
今後	・連節バスによる運行については、現在の利用状況を踏まえ、当面は現在の15分間隔運行を続けながら、引き続き、西鉄と連携しながら利用促進に取り組む。

●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興	
進捗	・R1には「G20 財務大臣・中央銀行総裁会議」や日本初開催となる「QS-APPLE2019」が開催。 ＊海外見本市等商談件数 H30n：128件 → R1n：119件 ＊コンベンションサポート件数 H30n：133件 → R1n：137件 ＊国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 H30n：14件 → R1n：11件
課題	・新型コロナウイルス感染症の影響により、開催規模の縮小化やWEB開催など、MICE開催のあり方が変わってきている。
今後	・新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、福岡市でMICEが開催され、地域経済の活性化に繋がるよう、段階に応じた誘致活動や支援に取り組む。 ・国家戦略特区の道路活用などユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上に努める。

施策 5－5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

1 事業等の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み

- ・世界フィギュアスケート国別対抗戦 2019 の開催
- ・第 103 回日本陸上競技選手権大会の開催
- ・ラグビーワールドカップ 2019 の開催
- ・FIVB ワールドカップバレーボール 2019 男子福岡大会の開催
- ・第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2022 福岡大会及び第 19 回 FINA 世界マスターズ水泳選手権 2022 九州大会の開催に向けた準備

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み

- ・ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地として各チームの受け入れ及び交流事業実施
- ・スウェーデン及びノルウェーの各オリンピック委員会の視察対応

総合体育館整備の推進 <再掲 1－5>

- ・H30. 12 から供用開始

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

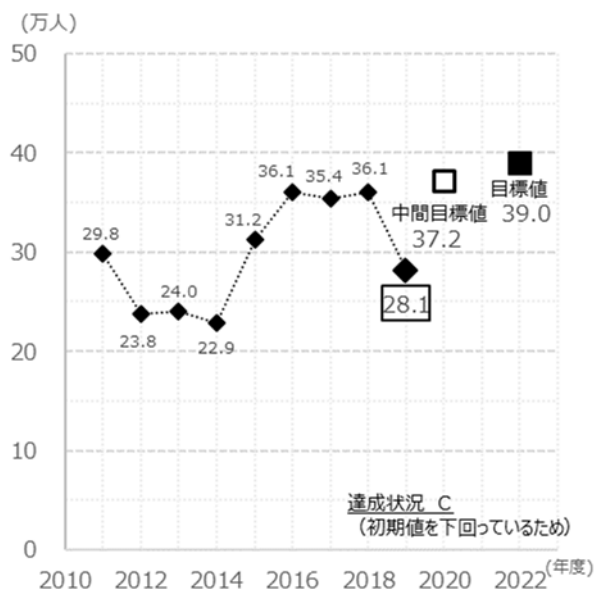
- ★アビスパ福岡によるサッカー教室の開催件数 H30n : 128 件 → R1n : 128 件
- ・観戦招待事業 H30n : 3 件 → R1n : 3 件
- ・心の教育プロジェクト H30n : 20 件 → R1n : 20 件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 H30n : 25 校 → R1n : 21 校
- ・こども観戦招待事業を実施 H30n : 290 人 → R1n : 580 人

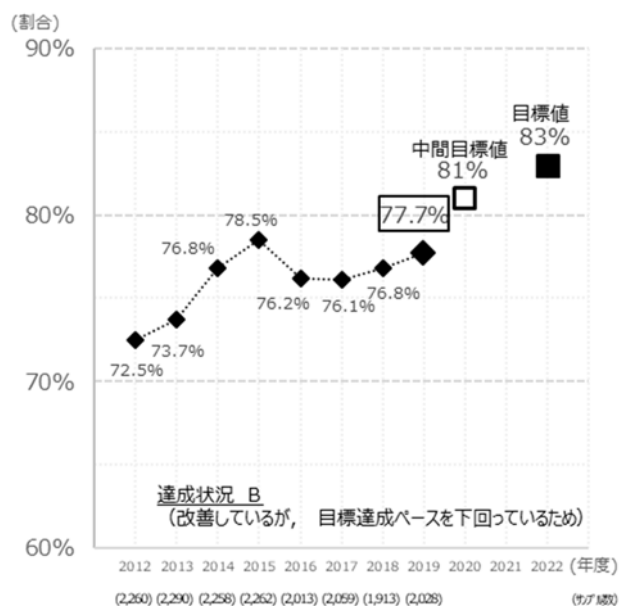
2 成果指標等

①福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く)



出典：福岡市市民局調べ

②スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合)



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①は、毎年安定的に目標値の達成に向けて順調に推移していたが、2019年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、プロスポーツリーグが中断したこと等により観客数が減少した。

指標②については、多くのプロスポーツや国際大会の開催などにより、高い水準で推移している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	- 世界フィギュアスケート国別対抗戦 2019 の開催 会期：平成 31 年 4 月 11 日（木）～4 月 14 日（日） 会場：マリンメッセ福岡 入場者数：合計 約 25,000 人 - 第 103 回日本陸上競技選手権大会の開催 会期：2019 年 6 月 27 日（木）～6 月 30 日（日） 会場：博多の森陸上競技場 入場者数：合計 約 38,300 人 - ラグビーワールドカップ 2019 については、福岡会場での 3 試合において観客輸送を実施したほか、JR 博多駅前広場でファンゾーンを開催するとともに、市役所西側広場等でパブリックビューイングを実施。 また、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会と連携して大会ボランティアの研修及び活動を実施。 - 福岡会場での試合実績 9 月 26 日（木） イタリア 対 カナダ 来場者数：16,984 人 10 月 2 日（水） フランス 対 アメリカ 来場者数：17,660 人 10 月 12 日（土） アイルランド 対 サモア 来場者数：17,967 人 - ファンゾーン開催実績 開催日数：8 日、来場者数：延べ 43,000 人超 - パブリックビューイング開催実績 開催日数：9 日、来場者数：延べ 11,000 人超 - 大会ボランティア活動実績 活動日数：17 日、活動者数：約 700 人 2021 年に開催を予定していた世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向け、第 2 回組織委員会を開催。組織委員会直後の記者会見で、大会基本計画、競技会場及びマスターズ水泳選手権の 3 都市（福岡市、熊本市、鹿児島市）開催を発表（R1.5）。 - 第 18 回 2019 光州 FINA 世界水泳選手権に於いて国際水泳連盟との協議を行うとともに、福岡大会ブースを設置して大会の P R を実施。閉会式で、次期開催都市である福岡市への引継ぎ式及び福岡市の P R を実施（R1.7～8）。 - マラソンスイミングオリンピック最終予選の開催決定（R1.7） - 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結し、東京オリンピック・パラリンピックで使用したプール等の再活用等を決定（R1.8）。 - 各種大規模イベントや国内の主要競泳大会におけるブース出展等の PR 活動を年間を通して実施。 - FIVB ワールドカップバレーボール 2019 男子福岡大会の開催 会期：令和元年 10 月 1 日（火）～10 月 6 日（日） 会場：マリンメッセ福岡 入場者数：合計 約 36,000 人
課題	- 新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集を行っていく必要がある。 2022 年に開催日程を変更した世界水泳選手権福岡大会の開催に向け、各種の取組予定を再検討するとともに、気運醸成や準備を進めていく必要がある。 - 市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。
今後	- 新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結した JOC と連携して招致を検討。 - ラグビーワールドカップ 2019 において得た経験を、今後のスポーツ大会等に活かしていく。 2022 年開催の世界水泳選手権福岡大会については、国際水泳連盟、日本水泳連盟等の大会開催に係る関係者と協議を行い、変更後の日程での円滑な大会運営に向け、着実に準備を進めていく。また、引き続き各種イベントにおける P R 活動を行うとともに、チケット販売、ボランティア募集、マスターズ参加者受付開始等の取組を、さらなる気運醸成に繋げていく。 - 世界水泳選手権での活用に向けて、総合西市民プールの改修工事を実施する。 - 市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み

進捗	- ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地として、各チームを受け入れるとともに地域交流事業を実施。 - イタリア（キャンプ期間：9/23～9/27，交流事業：席田小学校訪問） - アメリカ（キャンプ期間：9/27～10/3，交流事業：地元少年ラグビーチームと交流） - サモア（キャンプ期間：10/6～10/13，交流事業：市内高校ラグビー部と交流） - 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、スウェーデンオリンピック委員会及びノルウェーオリンピック委員会の視察等を受け入れた。
課題	世界のトップアスリートが福岡市でトレーニングを行う貴重な機会となることから、市民にとってトップレベルのスポーツに触れたり、外国のことを知ったりすることのできる機会をつくる必要がある。
今後	- 事前合宿期間中にトップアスリートと市民との交流事業を実施する。 - 事前合宿を成功させ、福岡市の評価を高めることが、新たな事前合宿の招致に繋がるため、地元企業・団体等と連携し、受け入れ準備を丁寧に進める。今後、スポーツ庁や、JOC その他の団体等と連携し、各種競技団体やスポーツ大会に関する情報収集に努める。

総合体育館整備の推進 <再掲 1 - 5>

進捗	H30.12 供用開始。
課題	特になし。
今後	PFI 事業者が実施する運営・維持管理業務のモニタリングを行う。

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり	
進捗	- 福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファークオカ等と協力して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ、スポーツフェスタ）の開催を支援している。 - アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がアビスパに触れる機会を創出している。 *サッカー教室の開催件数 H30n：128 件 → R1n：128 件 (内訳) ・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） H30n：7 件 → R1n：7 件 ・少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） H30n：92 件 → R1n：92 件 ・アビスパ健康教室（およそ 60 歳以上を対象とした運動啓発教室） H30n：15 件 → R1n：15 件 ・ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） H30n：14 件 → R1n：14 件 *観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） H30n：3 件 → R1n：3 件 *心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） H30n：20 件 → R1n：20 件
課題	アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファークオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しており、スポーツ観戦環境は恵まれているが、各チームが取り組む地域に根差した取組みなどについては広く市民に認知されていないものもあり、その活動の周知を行っていく必要がある。
今後	- 市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取り組みについて、広報活動を支援する。 - 各スポーツチームが取り組んでいる市民とのスポーツ交流活動を支援する。

大相撲九州場所等に触れる機会づくり	
進捗	- 大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM 映像放映等の PR を実施。 - 市内の小中特別支援学校を対象とした観戦招待事業及び、こども観戦招待事業を実施した。 *市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業 H30n：25 校 → R1n：21 校 *こども観戦招待事業 H30n：290 人 → R1n：580 人
課題	観戦招待事業については、市内の小中特別支援学校へ広く募集の案内を行っているものの、児童生徒の少ない小規模な学校などに応募が偏っており、小規模校以外の応募に向けた取組みが必要である。
今後	観戦招待事業及びこども観戦招待事業について、今後、より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、参加者や市民のニーズを踏まえて、日本相撲協会や福岡コンベンションセンター等関係団体と連携して検討を進めていく。

施策 5－6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

・外国人入国者数 H30n : 309 万人 → R1n : 269 万人

★海外現地プロモーション回数 H30n : 1 回 → R1n : 0 回

・情報発信・招請事業回数 H30n : 23 回 → R1n : 23 回

フィルムコミッションによるシティプロモーション

・海外作品撮影支援件数 H30n : 9 件 → R1n : 13 件

●クルーズ客拡大への取組み

多様なクルーズの誘致

★海外コンベンションへの参加回数 H30n : 2 回 → R1n : 2 回

クルーズ船の受入体制の整備

・クルーズ船寄港回数 H30 : 279 回 → R1 : 229 回

(うち外航クルーズ客船の寄港回数 H30 : 264 回 → R1 : 206 回)

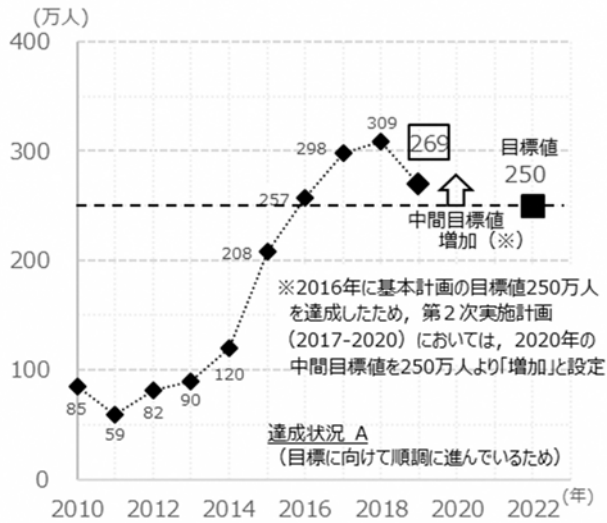
クルーズ客の受入体制の整備

・外国航路船舶乗降人員数(不定期) H30 : 160.2 万人 → R1 : 134.6 万人

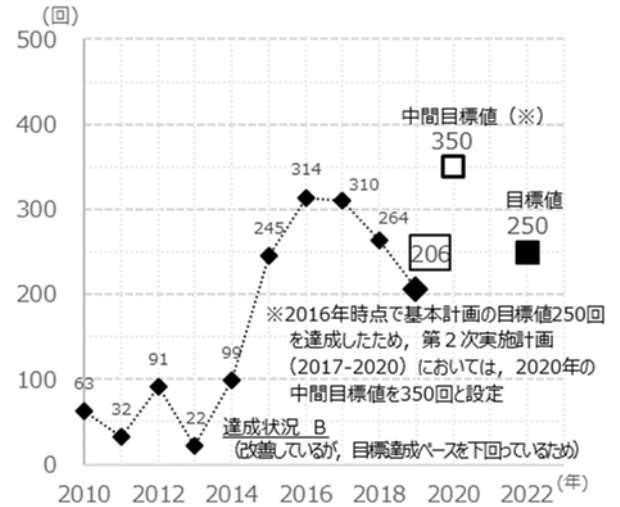
・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H30n : 6,092 台 → R1n : 5,906 台

2 成果指標等

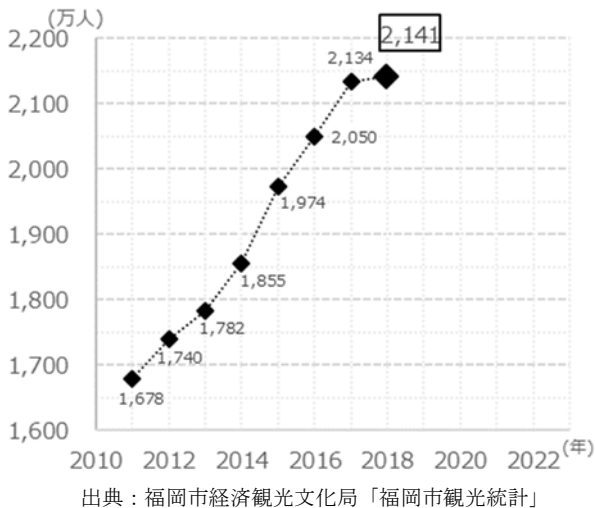
①福岡市への外国人来訪者数



②外航クルーズ客船の寄港回数



③入込観光客数〔補完指標〕



<指標の分析>

指標①は、目標値を上回っているが前年から減少している。これは日韓情勢の影響等を受け、構成比の大半を占める韓国からの入国者が2019(R1)年8月以降急激に減少したことが要因である。

指標②は、減少しているが、これは中国を中心に急速に拡大したクルーズ市場において、多くの船社の参入による過当競争が生じたため、調整局面にあるためである。

指標③は、増加しており、7年連続で過去最高を更新している。これはホテルの増加や観光・MICEの積極的な誘致・受入などにより、高い水準を維持できているものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ◎：順調
--------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進	
進捗	・ 直行便が就航しているアジアをはじめ、欧米及びオーストラリアに対して、観光展や説明会への参加、海外メディアを活用した情報発信、現地旅行会社の招請等を実施。 ・ 九州の10自治体が連携し、世界最大級のオンライン旅行会社であるエクスペディアグループのサイトを活用した、米国市場向けのプロモーションを実施。 * 外国人入国者数 H30n : 309 万人 → R1n : 269 万人 * 海外現地プロモーション回数 H30n : 1 回 → R1n : 0 回 * 情報発信・招請事業回数 H30n : 23 回 → R1n : 23 回 【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】 福岡市・九州離島広域連携事業 ・ 九州の離島3市2町と連携し、国内外へのプロモーション等を実施。 * 重要業績評価指標（KPI） ・ 離島航空路・航路利用者数（福岡からの直行便のみの降客数、1月～12月） H30n 実績値：579,403 人 → R1n 実績値：583,730 人 ・ 外国人延宿泊者数（福岡市を除く、1月～12月） H30n 実績値：227,523 人 → R1n 実績値：199,909 人 ・ 本事業で造成する旅行商品（福岡経由または福岡発離島行き）の利用者数 H30n 実績値：2,996 人 → R1n 実績値：7,427 人（延べ宿泊者数）
課題	・ 新型コロナウイルス感染症の影響を注視、分析しながら、その回復状況などを踏まえ、効果的なプロモーションの推進を検討する必要がある。 ・ 本市の外国人入国者は、韓国や中国等の東アジアが大半を占め、政治情勢の影響等により訪日客が減少するリスクを抱えていることから、直行便が就航している東南アジアや大型スポーツMICEの開催により多くの訪問が見込まれる欧米及びオーストラリア等、より多様な国や地域からの誘客を図る必要がある。 ・ 近年、観光客の大半はインターネット、特にスマートフォンを使って観光情報を収集しており、都市の知名度向上や誘客のためには、より一層、インターネットやSNS等を活用した情報発信に取り組んでいく必要がある。
今後	・ 幅広い国や地域からの誘客を図るために、これまで実施してきた海外メディアを活用した情報発信や現地旅行会社の招請等に加え、インターネット上のデータを活用した観光客の興味関心に直接訴求するプロモーションに取り組む。 ・ 九州のゲートウェイ都市として、九州の他自治体等と連携し、周遊ルートの魅力発信や観光客の利便性向上等に取り組み、市発着の広域観光を推進する。

フィルムコミッションによるシティプロモーション	
進捗	- 福岡フィルムコミッションについて、海外作品 13 件の撮影支援を行った。 *海外作品撮影支援件数 H30n : 9 件 → R1n : 13 件 - また、アジアフォーカス・福岡国際映画祭のゲストに対してロケ候補地を案内しプロモーションを行ったほか、釜山などの国際映画祭に併せて開催される海外の見本市等において撮影誘致活動を実施。 - 国内では、福岡でのシーンが人気を集める「偽装不倫」「博多弁の女の子はかわいいと思いませんか？」等の作品を活用し、ロケ地マップの配布等のプロモーション活動を実施。 - 海外においては、福岡・釜山が舞台の映画「めんたいぴりり」の釜山フードフィルムフェスタでの特別上映にあわせて、プロモーション活動を実施。
課題	- 海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。 - 撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。 - 福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。
今後	- 福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス・福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。 - 海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受け入れ体制の充実に取り組む。 - 支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光PRやシティプロモーションを行う。

●クルーズ客拡大への取組み

多様なクルーズの誘致	
進捗	- 国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動、見学会・セミナー、出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。 *海外コンベンションへの参加回数 H30n : 2 回 → R1n : 2 回 - 博多上海両港を発着するクルーズの試験運行ツアーを実施。H30 : 4 回 → R1 : 1 回
課題	- 新型コロナウイルスの影響があり、現時点ではクルーズ寄港再開の見込が立たない。 - 中国市場偏重によるカントリーリスクを避けるため、多様な地域からのクルーズ船の誘致に積極的に取り組むとともに、今後、欧米船社による日本発着クルーズや台湾発着クルーズなども増加が見込まれていることから、新型コロナウイルス感染症に係る事態が収束した際に再び多くの寄港をいただけるよう、活発な誘致活動が必要。
今後	- 新型コロナウイルスの状況を注視しながら、アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけや上海等他港との連携により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。 - FIT（訪日外国人個人旅行）の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化・上質化に取り組む。

クルーズ船の受入体制の整備	
進捗	- クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、国において、中央ふ頭西側岸壁の延伸を進め、H30.9に供用を開始。世界最大級のクルーズ船の着岸が可能となった。また、クルーズ船の組み合わせなど、条件によっては2隻同時着岸も可能となった。 - H31.2にとりまとめた基本スキーム素案を基にクルーズ機能の強化などについて民間サウンディングを実施。 *クルーズ船寄港回数 H30：279回 → R1：229回 (うち外航クルーズ客船の寄港回数 H30：264回 → R1：206回)
課題	新型コロナウイルス感染症等に伴い影響が生じているクルーズ市場の動向などを注視しながら、市場回復状況を踏まえた上で、クルーズ機能について検討する必要がある。
今後	新型コロナウイルス感染症による影響やクルーズ市場の動向などを注視しながら、適切に対応する。

クルーズ客の受入体制の整備	
進捗	- 観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。 - 福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 *樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H30n：6,092台 → R1n：5,906台 *外国航路船舶乗降人員数（不定期） H30：160.2万人 → R1：134.6万人
課題	- 新型コロナウイルス感染症等に伴い影響が生じているクルーズ市場の動向を注視する必要がある。 - クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生。 - 観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。
今後	- 観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。 - 寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。 - クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。 ※新型コロナウイルス感染症の影響やクルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。

